

消 防 年 報

令和6年版



宇 都 宮 市 消 防 局

宇都宮市民憲章

宇都宮市は、恵まれた自然と古い歴史に支えられ、
二荒の森を中心に栄えてきたまちです。
このふるさとに誇りをもち、みんなの力で豊かな未来を築くため、
市民の誓いを定めます。

- 1 健康で、心のふれあう明るいまちをつくれます。
- 2 きまりを守り、活気あふれる楽しいまちをつくれます。
- 3 学ぶことを大切にし、文化の薫る美しいまちをつくれます。

は し が き

昭和 23 年に消防組織法が施行され、市町村消防を原則とする自治体消防制度が誕生し、本市では、昭和 24 年 4 月 1 日に消防本部と消防署を設置しました。

このときから今年で 75 年を迎え、本市消防は市勢の進展とともに消防力の充実・強化を図ってきました。そして、消防団と連携しながら、「市民の生命、身体及び財産を火災から保護するとともに、水火災又は地震等の災害を防除し、及びこれらの災害による被害を軽減するほか、災害等による傷病者の搬送を適切に行う」という消防の任務の達成に向かって、鋭意努力しています。

この消防年報には、宇都宮市消防の姿が、令和 5 年の歩みを中心に表されています。

目 次

第 1 章 宇都宮市消防の概要

1	宇都宮市のあらまし	2
2	宇都宮市消防の沿革	3
3	令和 5 年度主要事業・行事	13
4	消防局・消防署配置図	17
5	消防局・消防署庁舎所在地一覧	18

第 2 章 業務概要

第 1 節 総務編

1	消防の組織について	20
2	宇都宮市の予算と消防予算について	21
3	消防局の定員及び実員について	21
4	消防局の分掌事務について	22
5	消防署の分掌事務について	23
6	消防局事業計画について	24
7	宇都宮市消防音楽隊について	25

第 2 節 予防編

1	火災の概況について	26
2	火災の調査について	26
3	住宅防火について	27
4	火災予防広報について	27
5	事業所における火災予防について	27
6	危険物の規制について	28
7	関係防火団体等について	28
8	自主防災組織について	28

第 3 節 警防編

1	消防活動の概況について	29
2	火災出動区分（普通火災）について	29
3	消防機械及び水利について	29
4	水防活動について	30
5	緊急消防援助隊について	30

第 4 節 救急編

1	救急活動の概況について	31
2	救急救命士について	31
3	メディカルコントロール体制について	31
4	宇都宮市救急医療対策連絡協議会について	32
5	救急業務高度化推進計画について	32
6	応急手当の普及啓発活動の推進について	32

第5節 救助編

1 救助活動の概況について	33
2 高度救助隊について	33
3 国際消防救助隊について	33

第6節 通信指令編

1 消防緊急通信指令システム等について	34
2 119番通報の概況について	35
3 出動車両運用管理について	35
4 消防団の出動体制について	35
5 各種情報サービスについて	35
6 災害情報の共有について	35

第7節 消防団編

1 消防団について	36
2 消防団の活動支援に関する取組について	37

第3章 統計資料

第1節 総務編

1 消防職員配置表	40
2 消防職員階級別勤続年数表	43
3 消防職員階級別年齢表	44
4 消防職員特殊技能その他の資格取得状況	45
5 消防職員学校教育派遣状況	46
6 消防職員一般教養実施状況	47
7 消防職員公務災害発生状況	48

第2節 予防編

1 防火対象物状況	50
2 立入検査状況	51
3 予防事務処理状況	52
4 建築同意事務処理状況	54
5 貯蔵取扱数量別危険物製造所等の件数	56
6 危険物事務処理件数	56
7 起震車運用回数	57
8 関係防火団体等	58
9 自主防災会結成状況	61

第3節 火災編

1 火災件数	64
2 火災件数等の推移	65
3 月別火災件数	68
4 出火原因別火災件数	68
5 月別出火原因別火災件数	69

6	月別出火原因別建物火災件数	70
7	月別出火原因別林野火災件数	71
8	月別出火原因別その他の火災件数	71
9	月別火災による死傷者数	72
10	火災による死者の実態調べ	72
11	令和5年の主な火災	72
12	昭和24年以降の主な建物火災	73
13	昭和35年以降の主な林野火災	78
14	栃木県火災件数	79
15	全国火災件数	79

第4節 警防編

1	災害出動件数	82
2	災害出動件数の推移	83
3	月別災害出動件数	84
4	署別災害出動件数	85
5	車両配置状況	86
6	車両使用経過年数	87
7	消防器材配備一覧	88
8	消防用ホース保有状況	90
9	消防水利状況	91
10	火災防ぎよに使用した水利概況	92
11	相互応援協定締結状況	93
12	宇都宮市水防組織	94
13	消防局・消防署の水防分掌事務	94
14	水防用資器材の備蓄状況	95
15	重要水防箇所一覧表	96

第5節 救急編

1	救急出動件数	98
2	救急出動件数の推移	99
3	月別救急出動件数	100
4	時間帯別救急出動件数	101
5	曜日別救急出動件数	102
6	隊（署）別救急出動件数	103
7	発生場所別搬送人員数	104
8	年齢別・性別搬送人員数	105
9	傷病程度別搬送人員数	106
10	事故種別・医療機関別搬送人員数	107
11	入電から現場到着までの所要時間	108
12	入電から医療機関収容までの所要時間	108
13	年別高速道路等救急出動件数	109
14	年別救急指導回数	110

第6節 救助編

1	救助出動件数	1 1 2
2	救助出動件数の推移	1 1 3
3	月別救助出動件数	1 1 4
4	時間帯別救助出動件数	1 1 5
5	署別救助出動件数	1 1 6
6	年別高速道路等救助出動件数	1 1 7

第7節 通信指令編

1	1 1 9 番受信件数	1 2 0
2	1 1 9 番受信件数の推移	1 2 0
3	月別 1 1 9 番受信件数	1 2 1
4	消防緊急通信指令システム構成機器	1 2 2
5	有線・無線通信施設	1 2 3
6	有線通信図	1 2 4
7	無線通信図	1 2 5
8	気象注意報等の発表状況と気象状況	1 2 6

第8節 消防団編

1	消防団出動件数	1 2 8
2	消防団出動件数の推移	1 2 8
3	月別消防団出動件数	1 2 9
4	消防団分団別配置数及び車両保有状況	1 3 0
5	消防団消防車両の現勢	1 3 1
6	消防団消防車両等の使用経過年数	1 3 8
7	消防団員の公務災害発生件数の推移	1 3 8
8	消防団員の報酬	1 3 8

一 目 統 計

面積	人口	世帯数	予算
416.85 k m ² 東西 23.97km 南北 29.53km	513,264 人(推計値) 消防職員 1 人当たり 1,096 人	235,188 世帯(推計値) 消防職員 1 人当たり 502 世帯	令和 6 年度消防予算 6,495,469 千円 市民 1 人当たり 12,655 円

署所数	職員数	消防団員数
消防局 1 局 4 課 消防署 4 署 分署 9 署	定員 509 人 実員 468 人 (うち女性 13 人)	消防団 1 団 26 分団 定員 2,150 人 実員 1,924 人 (うち女性 55 人)



【郷土玩具 黄鮎】

火災件数※1	救急件数※1	救助件数※1	119 番通報※1
110 件 (内訳) 建物火災 61 件 車両火災 14 件 その他の火災 35 件 【 出火原因 】 1 位 たき火 13 件 2 位 たばこ 11 件 3 位 こんろ 7 件 3 位 放火 7 件	出動件数 27,151 件 (1 日あたり 74 件) 搬送人員 21,932 人 【 救急 事故種別 】 1 位 急病 17,470 件 2 位 転院搬送 3,411 件 3 位 一般負傷 3,057 件 (出動件数)	出動件数 476 件 活動件数 224 件 救助人員 200 人 【 救助 事故種別 】 1 位 交通事故 100 件 2 位 建物等による事故 97 件 3 位 火災 22 件 (出動件数)	36,182 件 (内訳) 火災 205 件 救急 24,458 件 上記以外 11,519 件

防火対象物数	危険物施設数	防火団体
20,007 対象物 (内訳) 特定用途防火対象物 4,703 対象物 非特定用途防火対象物 15,304 対象物	1,460 施設 (内訳) 製造所 17 施設 貯蔵所 1,005 施設 取扱所 438 施設	宇都宮自衛消防協会 224 事業所 宇都宮危険物保安協会 278 事業所 幼年消防クラブ(29 クラブ)※2 1,628 人 少年消防クラブ(26 クラブ)※2 570 人 女性(婦人)防火クラブ(39 クラブ)※2 65,980 人 自主防災会 39 地区

消防車両等			水利
ポンプ車 13 台 タンク車 13 台 水槽車 2 台 化学車 4 台	はしご車 6 台 救助工作車 4 台 支援車 2 台 資材輸送車 5 台	指揮車 5 台 査察車 10 台 救急自動車 19 台 その他 9 台	公設消火栓 11,225 基 私設消火栓 237 基 公設防火水槽 717 基 私設防火水槽 426 基

(令和 6 年 4 月 1 日現在 ただし※1 は令和 5 年中、※2 は令和 6 年 5 月 1 日現在)

第 1 章

宇都宮市消防の概要



1 宇都宮市のあらまし

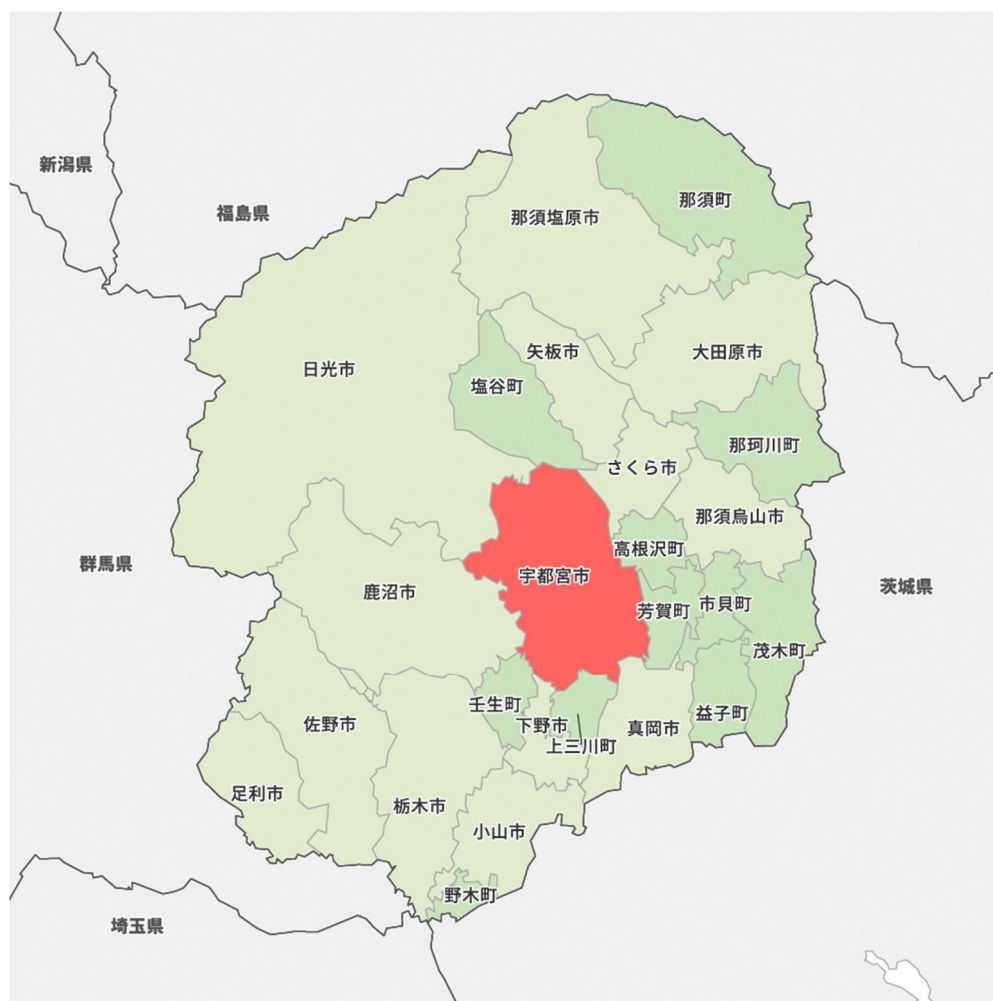
位置・地勢

本市は、東京から約 100 k m、栃木県のほぼ中央部に位置し、 広大な沃野を有する関東平野のほぼ北端で、北西に遠く日光連山を望んでいます。

北部の羽黒山から北西部にかけては、大谷、古賀志の丘陵が起伏し、良好な眺望や自然景観に恵まれ、一方中心部は、戸祭山、八幡山の連丘が接しており、豊かな緑が確保されています。

また、南北に流れる鬼怒川、姿川、田川などの河川は、地域一帯を潤し、周囲の平地林、水田、畑地等と田園的な環境を形成しています。

【宇都宮市の位置】



位置・面積・人口・世帯

東 経	1 3 9 ° 5 2 ' 5 8 ''	北 緯	3 6 ° 3 3 ' 1 9 ''
海 抜	1 1 6 . 0 7 m	面 積	4 1 6 . 8 5 k m ²
東 西	2 3 . 9 7 k m	南 北	2 9 . 5 3 k m
人 口	※ 5 1 3 , 2 6 4 人	世 帯 数	※ 2 3 5 , 1 8 8 世 帯
※人口及び世帯数は推計値		(令和 6 年 4 月 1 日現在)	

2 宇都宮市消防の沿革

江戸時代	宇都宮の町火消しのこととは資料が乏しいため、その詳細を知り得ないが200年前、江戸にならって町火消しをつくり、竜吐水・とび口・刺又・まとい等を備えたといわれる
明治22年	町制が施行され、公設消防組を組織
明治27年 2月	勅令をもって「消防組規則」が発布され、公設消防組が消防組に改組し、消防組は9部に分かれ組頭1名、各部に部長1名、小頭2名、消防手26名から35名と定める
明治29年 4月 1日	市制を施行
明治34年 4月	宇都宮市消防規定が制定され、全市を10部に分け消防手を増員
明治41年	蒸気ポンプ1台、腕用ポンプ9台を整備
大正 4年	蒸気ポンプ1台を増強
大正 5年 3月	水道が敷設され消火栓を設置
大正12年 4月	常備消防を設置、常備消防手10名を配置し、消防組員350名を259名に減じた
大正13年 4月	高さ70尺（約21m）の鉄骨の望楼が建設され、常備消防手による監視を開始
大正14年	市民の寄付により自動車ポンプ1台・ガソリンポンプ2台を整備
昭和 9年11月	常備消防詰所を埴田町の宇都宮警察署構内に移転
昭和14年 4月	勅令をもって警防団令が公布され、従来の防護団と消防組を合併し、宇都宮警防団を組織
	小学校の通学区域ごとに分団を編成して8分団とし、その事務所を区域内小学校に、本部を市役所内に配置
	組織体制は、団長1名、副団長2名、分団長8名、部長49名、班長107名、警防員1,532名の計1,699名となる
昭和20年 7月	7月12日夜、空襲によって市街地の約50%が被災し、9,173戸 47,976人が罹災、531人が死亡、1,128人が被害を受けたが、警防団はこの戦災にあたり、被害を最小限に止めるような勇敢な消防活動を行い6名がその職に殉じた
昭和22年10月	勅令をもって4月に「消防団令」が公布されたことにより、宇都宮市消防団設置条例等が制定され、10月28日に消防団の結団式を挙行
	組織体制は団長1名、副団長2名、分団長10名、副分団長11名、部長39名、班長40名、副班長80名及び団員814名の計1,036名となる
	消防団発足時は自動車ポンプ13台（内タンク車2台を含む）

昭和24年 4月	消防組織法が昭和23年3月7日施行されたため、宇都宮市消防本部設置規則、宇都宮市消防吏員定員条例等を制定し、昭和24年4月1日、消防本部（署）を塙田町356番地に設置 組織体制は1本部、1署、1分遣所となる 消防職員配置定数は54名と定める
昭和25年 4月 1日	消防職員配置定数66名となる
昭和26年 4月 1日	宇都宮市救急事務取扱規則が施行され、救急業務を開始（救急車1台配置）
昭和27年 4月 1日	消防職員配置定数90名となる
昭和28年 3月20日	下町分遣所を新設 組織体制が、1本部、1消防署、2分遣所となる
昭和28年 9月17日	国家消防本部の消防に関する都市等級調査により、4級都市に格付けされる
昭和29年 3月 7日	消防本部、消防団とも優良消防機関として国家消防本部長から表彰を受賞
昭和29年11月26日	消防本部（署）を本町1番3号に移転
昭和30年 4月 1日	町村合併促進法の趣旨により昭和29年8月から昭和30年4月にかけて隣接11町村が本市に編入され、これに対処して消防力の強化を図った 消防職員配置定数121名、消防団員配置定数2,961名（団本部外22分団）となる
昭和31年 6月14日	富屋分遣所を徳次郎町に城山分遣所を大谷町に新設 組織体制が、1本部、3課、1消防署、4分遣所となる
昭和32年 4月 1日	消防職員配置定数151名となる
昭和32年 6月 1日	雀宮分遣所を雀宮町に新設 組織体制が、1本部、3課、1消防署、5分遣所となる
昭和33年 4月 1日	消防職員配置定数166名、消防団員2,680名となる
昭和33年 4月15日	平石分遣所を石井町に新設 組織体制が、1本部、3課、1消防署、6分遣所となる
昭和33年12月27日	消防団所属のポンプの機械化が完了
昭和34年 2月 1日	陽南分遣所を江曾島町に新設 組織体制が、1本部、3課、1消防署、7分遣所となる
昭和34年 4月 1日	機構改革を行い、消防本部が3課11係となる
昭和35年 3月 3日	化学消防自動車を配置
昭和35年 4月 1日	消防団員配置定数2,340名となる
昭和36年12月27日	はしご自動車（18m級）を消防署に配置
昭和37年 4月 1日	消防職員配置定数181名となる
昭和38年 4月 1日	消防職員配置定数201名となる

昭和38年12月 7日	東町分遣所を東町に新設
昭和39年 4月 1日	組織体制が、1本部、3課、1消防署、8分遣所となる
昭和40年 4月	消防職員配置定数205名、消防団員配置定数2,310名となる
昭和42年 4月 1日	消防本部庁舎の一部改築を実施
昭和44年 4月 1日	消防職員配置定数208名となる
	消防職員配置定数211名となる
	河内町・上河内村と消防相互応援協定を締結
昭和46年 1月 6日	高発泡装置積載消防ポンプ自動車1台を消防署に配置
昭和46年 2月24日	はしご車（32m級）を東町分遣所に配置
昭和46年 4月 1日	消防職員配置定数221名となる
昭和47年 4月 1日	消防職員配置定数234名となる
昭和47年 8月25日	上町分遣所を幸町に新築移転
昭和48年 4月 1日	消防職員配置定数247名となる
昭和49年 1月30日	高発泡自動車を上町分遣所に配置
昭和49年 3月30日	下町分遣所を今泉町に新築移転
昭和49年 4月 1日	消防職員配置定数266名となる
	消防本部・署所の機構改革を行い本部と署を分離し、専任消防署長を配置
	組織体制が1本部、3課、1消防署、1分署、7分遣所となる
	上町分遣所を上町分署と改称
	河内町・上河内村と救急業務の受託に関する協定を締結
昭和49年 9月 1日	女性消防吏員（4名）を採用
昭和49年10月29日	救助工作車を消防署に配置
昭和49年12月20日	東北自動車道の開通に伴い県内通過市町村と消防相互応援協定を締結
昭和50年 4月 1日	消防職員配置定数275名となる
昭和50年 9月27日	化学消防自動車1台を増強（2台配置）
昭和50年10月 1日	特別救助隊1隊を消防署に設置
	望楼監視を廃止し、テレビ監視体制となる
昭和51年 4月 1日	消防団員配置定数1,900名となる
	消防署の機構改革により、上町分署を西消防署に昇格させ、下町分遣所を駅東分遣所と改称
	組織体制が1本部、2消防署、7分遣所となる
昭和51年12月24日	日光・宇都宮道路が開通し、相互応援協定により消防業務を開始
昭和52年 4月 1日	消防職員配置定数279名となる
昭和52年11月 1日	富屋分遣所が救急業務を開始
昭和53年 4月 1日	消防職員配置定数290名となる
	機構改革を行い、消防本部に通信指令課を新設、駅東・雀宮・東町・富屋各分遣所をそれぞれ分署と改称
	組織体制が1本部、4課、2消防署、4分署、3分遣所となる

昭和53年 6月 1日	消防本部・中央消防署併設庁舎を大曾 2 丁目 2 番 2 1 号に新築移転、業務を開始
昭和54年 4月 1日	消防職員配置定数 3 0 0 名となる 陽南分遣所を分署と改称し、救急業務を開始 組織体制が 1 本部， 4 課， 2 消防署， 5 分署， 2 分遣所となる
昭和55年 1月 1日	鹿沼市と消防相互応援協定を締結
昭和55年 4月 1日	消防職員配置定数 3 0 2 名， 消防団員配置定数 1, 6 6 0 名となる 機構改革を行い， 危険物事務を各署予防係から本部予防課に移管 真岡市・芳賀町と消防相互応援協定を締結 今市市と消防相互応援協定を締結
昭和55年10月 2日	消防団所属のポンプの機動化が完了
昭和56年 1月 9日	中央消防署雀宮分署を宮の内 1 丁目に新築移転
昭和56年 3月 9日	石橋町・上三川町・壬生町と消防相互応援協定を締結
昭和56年 4月 1日	消防職員配置定数 3 1 2 名となる 機構改革を行い， 中央消防署雀宮分署が南消防署に昇格 組織体制が 1 本部， 4 課， 3 消防署， 4 分署， 2 分遣所となる
昭和56年 5月20日	特殊災害消防相互応援協定を県下 1 4 消防本部と締結
昭和56年 8月31日	起震車を中央消防署に配置
昭和57年 3月27日	はしご車（ 1 8 m 級） 1 台を増強（ 3 台配置）
昭和57年 4月 1日	消防職員配置定数 3 2 0 名となる
昭和57年 5月25日	ドクターカーの運用を開始
昭和57年11月12日	救助工作車（クレーン付） 1 台を増強した。（ 2 台配置）
昭和58年 1月30日	中央消防署平石分遣所を石井町に新築移転
昭和58年 4月 1日	中央消防署平石分遣所を分署と改称し， 救急業務を開始 組織体制が 1 本部， 4 課， 3 消防署， 5 分署， 1 分遣所となる
昭和58年11月28日	化学車 1 台を増強（ 3 台配置）
昭和59年 4月 1日	消防職員配置定数 3 2 8 名となる
昭和60年 3月20日	河内町・上河内村と消防事務の受託に関する協定を締結
昭和60年 4月 1日	西消防署宝木分署を細谷 1 丁目地内に新設， 業務を開始 消防署所の体制が 3 消防署， 6 分署， 1 分遣所となる 消防職員配置定数 3 6 1 名となる（事務受託分 3 3 名の増員）
昭和61年 3月24日	高根沢町， 塩谷広域行政組合と消防相互応援協定を締結
昭和61年 3月28日	河内町， 上河内村と消防団相互応援協定を締結
昭和61年 4月 1日	中央消防署河内分署， 上河内分署を新設し業務を開始 組織体制が 1 本部， 4 課， 3 消防署， 8 分署， 1 分遣所となる 宇都宮市消防音楽隊を発足
昭和61年10月18日	小型動力ポンプ付水槽車（ 1 0 m ³ ）を中央消防署に配置
昭和62年 3月20日	西消防署富屋分署を徳次郎町に新築移転
昭和62年11月20日	屈折はしご車（ 2 5 m 級） 1 台を増強（ 4 台配置）

昭和62年12月16日	照明付指揮車を中央消防署に配置
昭和63年 9月12日	通信指令課に聴覚障害者のための緊急通報用ファクシミリを設置
平成元年 2月28日	救助工作車 1 台を増強（3 台配置）
平成元年 3月29日	南消防署陽南分署を双葉3 丁目に新築移転
平成元年 4月 1日	消防職員配置定数 3 7 3 名となる
平成 2年 3月31日	3 2 m級はしご車を更新し、4 0 m級はしご車を中央消防署に配置
平成 2年 4月 1日	消防職員配置定数 3 9 1 名となる
	西消防署城山分遣所を分署に改称
	組織体制が 1 本部 4 課、3 消防署、9 分署となる
平成 2年 7月 1日	西消防署城山分署を大谷町に新築移転
平成 2年 9月 1日	通信指令課に宇都宮市緊急通報システム（ペンダント）の受信センターを開設
平成 3年 4月 1日	中央消防署築下分署を下栗 1 丁目に新設し業務を開始 組織体制が 1 本部、4 課、3 消防署、1 0 分署となる
平成 3年 7月 1日	消防緊急通信指令システムが完成し運用を開始
平成 4年 1月28日	はしご車（1 5 m級）1 台を増強し、南消防署に配置（5 台配置）
平成 4年 3月27日	小型動力ポンプ付水槽車（7 m ³ ）を西消防署に配置
平成 4年 4月 1日	消防職員配置定数 4 0 6 名となる
平成 4年 7月 1日	週休二日制を施行（市長事務局と同時実施）
平成 4年11月20日	本市消防本部初の救急救命士 1 名が誕生
平成 5年 2月10日	救助工作車（クレーン付）を更新し、南消防署に配置
平成 5年 3月29日	救急車を高規格救急車に更新し、中央消防署に配置 （高規格救急車 1 台配置）
平成 5年 4月 1日	消防職員配置定数 4 2 5 名となる
平成 5年11月29日	救急車を高規格救急車に更新し、西消防署に配置 （高規格救急車 2 台配置）
平成 6年 3月10日	化学消防自動車 1 台を清原分署（仮称）に配置
平成 6年 3月31日	ドクターカーの運用を廃止
平成 6年 4月 1日	中央消防署清原分署を清原工業団地内に新設、業務を開始 組織体制が 1 本部、4 課、3 消防署、1 1 分署となる
平成 6年12月14日	屈折はしご自動車（2 0 m級）1 台を築下分署に配置（6 台配置）
平成 6年12月26日	救急車を高規格救急車に更新し、南消防署に配置 （高規格救急車 3 台配置）
平成 7年 1月20日	阪神・淡路大震災救助支援のため、救助工作車で救助隊員 5 名を派遣
平成 7年 6月30日	緊急消防援助隊に登録
平成 7年12月20日	はしご車（2 0 m級）を更新し、屈折はしご自動車（2 0 m級）を西消防署に配置
平成 8年 1月19日	高規格救急車（4 WD）を中央消防署に配置し、中央消防署の高規格救急車を駅東分署に配置（高規格救急車 4 台配置）

平成 8年 2月29日	救助工作車（Ⅱ型）を救助工作車（Ⅲ型）に更新し、中央消防署に配置
平成 8年 3月19日	災害後方支援車 1 台を中央消防署に配置
平成 8年 4月 1日	消防職員配置定数 4 3 4 名となる
平成 8年12月17日	水槽付消防ポンプ自動車 1 台を更新し、中央消防署に配置
平成 8年12月25日	消防ポンプ自動車（非常用） 1 台を中央消防署に配置
平成 9年 4月18日	高所監視カメラ画像伝送システムの運用を開始
平成10年 1月23日	化学消防自動車 1 台を更新し、南消防署に配置
平成10年 1月28日	救急車 2 台を高規格救急車（4WD）に更新し、富屋分署と河内分署に配置（高規格救急車 6 台配置）
平成10年 1月30日	水槽付消防ポンプ自動車 1 台を更新し、上河内分署に配置
平成10年 3月26日	指揮車を更新し、中央消防署に配置
平成11年 1月29日	水槽付消防ポンプ自動車を更新し、東町分署と宝木分署に配置
平成11年 3月25日	起震車を更新し、中央消防署に配置
平成11年 3月	宇都宮市消防沿革史を発刊
平成11年 5月29日	宇都宮市消防本部発足 5 0 周年記念演奏会を実施
平成11年 8月 5日	救急車 2 台を高規格救急車（4WD）に更新し、清原分署と上河内分署に配置（高規格救急車 9 台配置）
平成11年 8月30日	消防ポンプ自動車 1 台を更新し、平石分署に配置
平成11年 9月28日	水槽付消防ポンプ自動車 2 台を更新し、平石分署と河内分署（4WD）に配置
平成11年10月14日	連絡車を更新し、河内分署に配置
平成11年12月 1日	栃木県緊急医療情報システムを更新
平成11年12月 1日	宇都宮市緊急通報システム（ペンダント）を更新
平成12年 3月17日	消防本部・中央消防署庁舎の耐震補強及び増築工事を実施
平成12年 4月 1日	栃木県防災行政ネットワークシステムを新設
平成12年 4月 1日	消防団緊急伝達システムを更新
平成12年 8月10日	消防ポンプ自動車 2 台を更新し、富屋分署と城山分署に配置
平成12年 8月28日	救急車 2 台を高規格救急車（4WD）に更新し、築下分署と城山分署に配置（高規格救急車 1 1 台配置）
平成12年 9月27日	化学消防自動車 1 台を更新し、西消防署に配置
平成12年10月27日	国際消防救助隊（I R T）に隊員 8 名を登録
平成12年12月13日	1 1 9 番回線を増設（9 回線）
平成13年 3月19日	はしご車（2 0 m 級）を 3 0 m 級に更新し、南消防署に配置
平成13年 4月 1日	国際消防救助隊（I R T）の運用を開始
平成13年 4月 1日	「メール 1 1 9」携帯電話を開設
平成13年 6月27日	高規格救急車 1 台を更新し、中央消防署に配置
平成13年12月 4日	連絡車 1 台を更新し、上河内分署に配置
平成14年 1月30日	指揮車 1 台を更新し、西消防署に配置
平成14年 2月 9日	西消防署を鶴田町に新築移転し、業務を開始

平成14年 2月28日	消防ポンプ自動車（４WD）２台を更新し、河内分署と上河内分署に配置
平成14年 3月20日	高規格救急車（４WD）１台を更新し、平石分署に配置
平成15年 1月27日	高規格救急車（４WD）２台を更新し、陽南分署と駅東分署に配置、管内全署所の救急車が高規格車となる（非常用救急車を除く）
平成16年 4月 1日	新消防緊急通信指令システムの運用を開始
平成16年10月25日	新潟県中越大震災による被災地救援のため、緊急消防援助隊栃木県隊として４隊（指揮部隊、救助部隊、救急部隊、後方支援部隊）、１４名を派遣
平成17年 2月25日	高規格救急車（４WD）１台を更新し南消防署に配置、非常用を含め管内全署所の救急車が高規格車となる
平成17年10月13日	救助工作車（Ⅱ型）を（Ⅲ型）に更新し、中央消防署に配置、中央消防署の救助工作車（Ⅲ型）を西消防署に配置替え
平成18年 4月 1日	消防職員配置定数４４０名となる
平成18年10月12日	屈折はしご車（２０m級）をはしご車（３０m級）に更新し、東町分署に配置
平成18年11月12日	総合運動公園で緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練を実施
平成19年 3月20日	化学消防自動車１台を更新し、駅東分署に配置
平成19年 3月20日	消防ポンプ自動車１台を更新し、南消防署に配置
平成19年 3月31日	本市が上河内町及び河内町と合併
平成19年 4月 1日	合併に伴い、消防職員配置定数４５５名、消防団員配置定数２，１５０名となる
平成19年 4月 1日	本庁に危機管理課が新設されたことに伴い、職員を２名派遣
平成20年 3月28日	高規格救急車２台を更新し、河内・富屋分署に配置
平成20年 4月 1日	中央消防署駅東分署及び同署東町分署を統廃合し、東消防署を中今泉５丁目に新設し業務を開始
	消防職員配置定数４６３名、組織体制が１本部、４課、４消防署、９分署となる
	機構改革に伴い、平石分署及び清原分署を中央消防署から東消防署へ移管し、築下分署を中央消防署から南消防署へ移管
	特別救助隊を東消防署へ配置
	指揮車、救助工作車、査察車を各１台増車し、東消防署へ配置
	高度救助隊（愛称：スーパーレスキューUTSUNOMIYA）を発足し、中央消防署に配置
平成20年10月 1日	携帯電話・ＩＰ電話位置情報通知システムの運用を開始
平成20年11月11日	高規格救急車１台を更新し、宝木分署に配置
平成20年11月26日	救助工作車（Ⅱ型）を（Ⅲ型）に更新し、南消防署に配置
平成20年12月 4日	宇都宮市緊急通報システム（ペンダント）事業が民間委託となる
平成20年12月19日	水槽付消防ポンプ自動車１台を更新し、西消防署に配置
平成21年 3月 9日	水槽付消防ポンプ自動車１台を更新し、陽南分署に配置

平成21年 6月30日	水槽付消防ポンプ自動車 1 台を更新し、中央消防署に配置
平成21年11月26日	高規格救急車 1 台を更新し、上河内分署に配置
平成21年12月15日	はしご付消防自動車（40m級）1 台を更新し、中央消防署に配置
平成22年 3月25日	高規格救急車 1 台を更新し、清原分署に配置
平成22年 3月26日	査察車 2 台を更新し、中央消防署及び南消防署に配置
平成22年 3月30日	消防ポンプ自動車 1 台、水槽付消防ポンプ自動車 1 台を更新し、中央消防署に配置
平成22年 3月31日	小型動力ポンプ付水槽車（7m ³ ）1 台を更新し、西消防署に配置
平成22年11月17日	消防ポンプ自動車 2 台を更新し、清原分署と築下分署に配置
平成22年12月16日	高規格救急自動車 1 台を更新し、築下分署に配置
平成23年 1月19日	化学消防ポンプ自動車 1 台を更新し、清原分署に配置
平成23年 2月28日	高規格救急自動車 1 台を更新し、城山分署に配置
平成23年 3月 8日	指揮車 1 台を更新し、南消防署に配置
平成23年 3月11日	はしご付消防自動車（15m級）1 台を更新し、陽南分署に配置
平成23年 3月12日	東日本大震災による被災地救援のため、緊急消防援助隊栃木県隊として5隊（指揮部隊、救助部隊、救急部隊、後方支援部隊（2隊））、22名を岩手県に派遣（第4次派遣部隊まで、延べ88名を派遣）
平成23年 3月25日	東日本大震災による被災地救援のため、緊急消防援助隊栃木県隊として3隊（指揮部隊、救急部隊、後方支援部隊）、9名を福島県に派遣（第13次派遣部隊まで、延べ57名を派遣）
平成23年 3月28日	連絡車 1 台を更新し、通信指令課に配置
平成23年11月 1日	「新発信地表示システム」と「位置情報通知システム」を統合し運用を開始
平成24年 3月 1日	消防団への災害指令にEメール指令装置を導入
平成24年 3月14日	高規格救急自動車 2 台を更新し、中央消防署と平石分署に配置
平成24年 3月19日	4 消防署の現場画像伝送装置を更新導入
平成24年 3月21日	水槽付消防ポンプ自動車 1 台を更新し、上河内分署に配置
平成24年 3月22日	資材輸送車 1 台を更新し、南消防署に配置
平成24年 3月23日	消防ポンプ自動車 1 台を更新し、中央消防署に配置
	指揮車 1 台を更新し、西消防署に配置
平成24年 3月29日	救助工作車Ⅲ型 1 台を更新し、西消防署に配置
平成24年 4月 6日	指揮車 1 台を更新し、中央消防署に配置
平成24年 7月 5日	MCA無線機を導入し運用を開始
平成24年10月18日	燃料補給車 1 台を西消防署に配置
平成24年11月16日	高規格救急自動車 1 台を更新し、陽南分署に配置
平成25年 2月21日	支援車（I型）1 台を更新し、東消防署に配置
平成25年 3月22日	水槽付消防ポンプ自動車 1 台を更新し、東消防署に配置
平成25年 3月25日	高規格救急自動車 1 台を更新し、東消防署に配置
平成25年 3月29日	水槽付消防ポンプ自動車 1 台を更新し、宝木分署に配置

平成25年 3月31日	無線サイレン吹鳴装置を廃止
平成26年 3月10日	高規格救急自動車 1 台を更新し、西消防署に配置
平成26年 3月13日	災害対応特殊屈折はしご付消防自動車 1 台（25m級）を更新し、築下分署に配置
平成26年 3月13日	査察車 2 台を更新し、消防本部及び中央消防署に配置
平成26年 3月28日	水槽付消防ポンプ自動車 2 台を更新し、河内分署及び平石分署に配置
平成27年 3月19日	消防ポンプ自動車 1 台を更新し、平石分署に配置
平成27年 3月26日	災害対応特殊屈折はしご付消防自動車 1 台（25m級）を更新し、西消防署に配置
平成27年 3月27日	高規格救急自動車 1 台を更新し、南消防署に配置
平成27年 3月30日	化学消防ポンプ自動車 1 台を更新し、南消防署に配置
平成27年 3月31日	画像伝送システムを廃止
平成27年12月18日	査察車 1 台を更新し、南消防署に配置
平成28年 3月29日	消防ポンプ自動車 2 台を更新し、富屋分署及び城山分署に配置
平成28年 4月 1日	宇都宮市消防局に名称変更し、組織体制が 1 局、4 課、4 消防署、9 分署となる 「消防緊急通信指令システム及び消防救急デジタル無線システム」の運用を開始
平成29年 2月23日	化学消防ポンプ自動車 1 台及び査察車 1 台を更新し、西消防署に配置
平成29年 2月27日	高規格救急自動車 2 台を更新し、河内分署と富屋分署に配置
平成29年 3月21日	津波・大規模風水害対策車 1 台を西消防署に配置
平成29年 3月28日	マイクロバスを更新し、支援車（Ⅲ型）1 台を築下分署に配置
平成30年 3月26日	高規格救急自動車 1 台を更新し、宝木分署に配置
平成30年 3月28日	水槽付消防ポンプ自動車 1 台を更新し、富屋分署に配置
平成30年 3月29日	消防ポンプ自動車 1 台を更新し、河内分署に配置
平成30年11月27日	高規格救急自動車 2 台を更新し、上河内分署と清原分署に配置
平成31年 2月25日	水槽付消防ポンプ自動車 2 台を更新し、城山分署と築下分署に配置
令和元年12月17日	高規格救急自動車 1 台を更新し、築下分署に配置
令和元年12月18日	高規格救急自動車 1 台を更新し、城山分署に配置
令和 2年 1月 1日	「Net119 緊急通報システム」の運用を開始
令和 2年 3月13日	水槽付消防ポンプ自動車 1 台を更新し、南消防署に配置
令和 2年 3月26日	はしご付消防自動車（30m級）1 台を更新し、南消防署に配置
令和 2年 3月27日	消防ポンプ自動車 2 台を更新し、東消防署と宝木分署に配置
令和 2年12月21日	高規格救急車 1 台を更新し、中央消防署に配置
令和 2年12月22日	高規格救急車 1 台を更新し、平石分署に配置
令和 3年 1月26日	無人航空機（ドローン）1 機を警防課に配置
令和 3年 3月16日	消防ポンプ自動車 2 台を更新し、西消防署と陽南分署に配置
令和 3年 3月31日	救助工作車Ⅲ型 1 台を更新し、中央消防署に配置

令和 3年 4月 1日	平日の日中に活動する救急隊（通称：日勤救急隊）を創設し、中央消防署に配置
令和 3年 7月19日	熱海市伊豆山土石流災害による被災地救援のため、緊急消防援助隊栃木県隊として5隊（指揮部隊、救助部隊、後方支援部隊（3隊））、19名を静岡県熱海市に派遣（第3次派遣部隊まで、延べ57名を派遣）
令和 3年11月11日	高規格救急車1台を更新し、陽南分署に配置
令和 3年11月25日	高規格救急車1台を更新し、東消防署に配置
令和 4年 3月23日	水槽付消防ポンプ自動車1台を更新し、西消防署に配置
令和 4年 3月29日	無人航空機（ドローン）1機を中央消防署に配置
令和 4年 4月 1日	「Live 119 現場映像通報システム」の運用を開始
令和 4年 5月26日	無人航空機（ドローン）1機を警防課に配置
令和 4年10月 1日	「宇都宮市電子申請共通システム」を活用した電子申請受付を開始
令和 4年10月19日	連絡車1台を更新し、総務課に配置
令和 5年 3月23日	高規格救急車1台を更新し、西消防署に配置
令和 5年 3月27日	消防ポンプ自動車1台を更新し、南消防署に配置
令和 5年 6月22日	救助工作車Ⅲ型1台を更新し、東消防署に配置
令和 5年 6月28日	水槽付消防ポンプ自動車2台を更新し、中央消防署と陽南分署に配置
令和 5年 6月30日	化学消防ポンプ自動車1台を更新し、東消防署に配置
令和 6年 3月14日	高規格救急車1台を更新し、南消防署に配置
令和 6年 3月21日	水槽付消防ポンプ自動車1台を更新し、中央消防署に配置
令和 6年 3月25日	資材輸送車1台を更新し、警防課に配置
令和 6年 4月 1日	消防職員配置定数509名となる 本市消防局初の女性高度救助隊員1名が誕生

3 令和5年度主要事業・行事

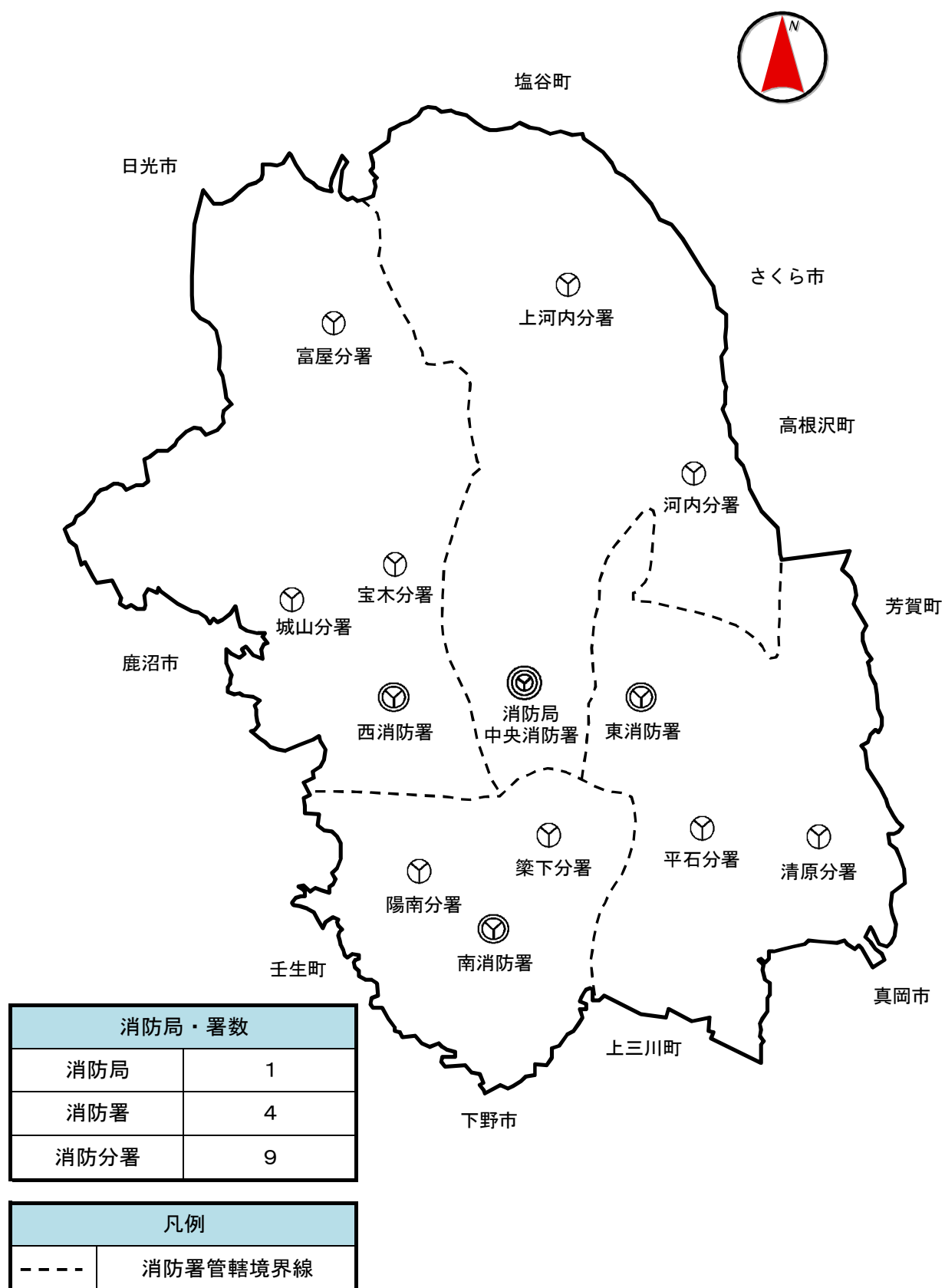
月	日	事業・行事内容(令和5年度実績)	担当課・署
4	3日	消防職・団員辞令交付式(本庁・消防局)	総務課
	5日	栃木県消防学校初任教育(第71期)入校(23名) ～9/20	総務課
	5日	救急救命東京研修所第64期生入校(1名) ～9/29	総務課
	5日	興行場防火デー ～4/11	予防課
	7日	第1回救助担当者会議(消防局)	警防課
	9日	応急手当講習会	中央消防署
	11日	宇都宮危険物保安協会 定例監査会(東消防署)	予防課
	13日	団長・副団長会議/分団長会議	総務課
	14日	栃木県消防長会総会/第1回定例協議会(鹿沼市)	総務課
	19日	宇都宮市幼少年婦人防火委員会(東消防署)	予防課
	20日	消防大学校実務講習緊急援助隊教科指揮隊長コース(第28回)入校(1名) ～5/2	総務課
	20日	宇都宮危険物保安協会役員会 通常総会(ホテルニューイタヤ)	予防課
	20日	第1回救急担当者会議	警防課
	24日	令和5年度第1回ドクターカー症例検討会	警防課
	25日	宇都宮婦人防火クラブ連合会第1回四役会/役員会(東消防署)	予防課
	26日	少年消防クラブ指導者会議(消防局)	予防課
	27日	宇都宮消友会総会(書面会議)	総務課
	27日	第74回全国消防長会関東支部総会/第46回全国消防長会関東支部消防職員意見発表会(千葉県千葉市)	総務課
	27日	令和5年度全国消防長会関東支部優良消防職員表彰式(千葉県千葉市)	総務課
	28日	予防担当者会議(東消防署)	予防課
5	2日	第48回栃木県消防救助技術大会指導者・審判会議(東消防署)	総務課
	6日	緊急通報回線迂回等訓練 ～5/7	通信指令課
	8日	救急救命士就業前病院実習(済生会宇都宮病院) ～6/6	警防課
	9日	危険物取扱者試験監督員研修会(東消防署)	予防課
	10日	利根川・荒川・多摩川洪水伝達訓練	通信指令課
	12日	全国消防長会関東支部事務担当者会議(神奈川県)	総務課
	12日	宇都宮婦人防火クラブ連合会総会(東消防署)	予防課
	13日	宇都宮市水防訓練(道場宿緑地)	警防課
	14日	新任消防団員・新任部長・消防団員機関員研修	総務課
	14日	応急手当講習会	東消防署
	16日	危険物取扱者試験準備講習会(東消防署)	予防課
	17日	栃木県消防協会河宇支部団長会	総務課
	17日	第48回栃木県消防救助技術大会審判部長等会議(東消防署)	総務課
	18日	宇都宮自衛消防協会役員会・総会(東武ホテルグランデ)	予防課
	19日	消防安全委員会/安全管理研修会(消防局)	警防課
	20日	危険物取扱者試験準備講習会(清原工業団地管理センター)	予防課
	21日	防災訓練(陽東地区)	東消防署
	23日	第1回警防担当者会議(消防局)	警防課
	24日	消防親和会第1回役員会(書面会議)	総務課
	25日	令和5年度第1回事後検証会/第1回栃木県ドクターヘリ事後検証会(東消防署)	警防課
	26日	幼年消防クラブ指導者会議(東消防署)	予防課
	26日	栃木県警と連携したC災害想定訓練	警防課
	27日	第71回利根川水系連合・総合水防演習(埼玉県深谷市)	警防課
	29日	栃木県危険物保安協会総会	予防課
	29日	重要水防箇所調査(市内)	警防課
	30日	第75回全国消防長会総会/全国消防職員意見発表会(京都府京都市) ～6/1	総務課
6	4日	危険物安全週間 ～6/10	予防課
	4日	令和5年度国県市水没事故救助合同訓練(御幸町アンダー)	警防課
	4日	令和5年度土砂災害全国統一防災訓練	警防課
	5日	危険物安全大会 ～6/6	予防課
	6日	救急救命士再教育病院実習(済生会宇都宮病院) ～3/8	警防課
	8日	団長・副団長会議及び分団長会議・互助会総会	総務課
	9日	危険物施設消防訓練(王子タック株式会社宇都宮工場)	予防課
	11日	応急手当講習会	西消防署
	14日	関東地方非常通信協議会総会	通信指令課
	17日	第48回栃木県消防救助技術大会審判役員等打合せ会議・リハーサル会(県消防学校)	総務課
	18日	防災訓練(平石地区)	東消防署
	21日	第48回栃木県消防救助技術大会(県消防学校)	総務課
	26日	令和5年度第2回ドクターカー症例検討会	警防課
	28日	栃木県消防協会トップセミナー ～6/29	総務課
	29日	土砂災害危険箇所点検(市内)	警防課

月	日	事業・行事内容(令和5年度実績)	担当課・署
7	1日	宇都宮婦人防火クラブ連合会 普通救命講習会(中央消防署)	予防課
	4日	少年消防クラブ宇都宮委員会第1回定例委員会(オンライン)	予防課
	6日	関東支部違反是正推進連絡会(オンライン)	予防課
	6日	危険物表彰伝達式	予防課
	9日	応急手当講習会	南消防署
	10日	栃木県消防長会救助担当者研修会(宇都宮市)	総務課
	13日	第51回消防救助技術関東地区指導会 水上の部(茨城県ひたちなか市)	総務課
	13日	救急救命九州研修所指導救命士養成研修第2期入校(1名) ~8/25	総務課
	18日	宇都宮婦人防火クラブ連合会 役員管外視察研修	予防課
	19日	第1回宇都宮市自主防災会連絡会議(東消防署)	予防課
	20日	令和5年度第2回事後検証会・第2回栃木県ドクターヘリ事後検証会(東消防署)	警防課
	23日	宇都宮市消防団夏期点検	総務課
	27日	第51回消防救助技術関東地区指導会 陸上の部(県消防学校)	総務課
	31日	栃木県消防学校特別教育水難救助科入校(1名) ~8/9	総務課
8	1日	栃木県消防長会通信担当者研修会(宇都宮市)	総務課
	1日	第1回栃木県消防通信連絡協議会	通信指令課
	3日	団長・副団長会議/分団長会議	総務課
	4日	栃木県消防長会救急担当者研修会(宇都宮市)	総務課
	5日	令和5年度宇都宮市総合防災訓練(上河内中学校)	警防課
	5日	ふるさと宮まつり消防警備 ~8/6	中央消防署
	12日	うつのみや花火大会警備	東消防署
	13日	応急手当講習会	中央消防署
	18日	栃木県消防長会予防担当者研修会/違反是正推進連絡会/住宅用火災警報器設置・維持管理対策連絡会/違反是正事例研究会	総務課
	21日	栃木県消防防災航空隊連携訓練	警防課
	22日	栃木県消防長会第2回定例協議会(宇都宮市)	総務課
	23日	消防衛生委員会	総務課
	23日	危険物取扱者保安講習会(とちぎ福祉プラザ)	予防課
	24日	全国消防協会理事会/全国優良職員表彰式(北海道札幌市)	総務課
	25日	第51回全国消防救助技術大会(北海道札幌市)	総務課
	26日	防災訓練(横川地区)	南消防署
	28日	自主防災会・役員リーダー研修会	予防課
	28日	令和5年度第3回ドクターカー症例検討会	警防課
	29日	令和5年度宇都宮市消防職員委員会	総務課
	30日	建築防災週間 ~9/5	予防課
9	2日	救急フェア(東消防署)	東消防署
	3日	防災訓練(桜地区)	西消防署
	7日	消防大学校実務講習緊急援助隊教育科NBCコース(第13回)入校(1名) ~9/28	総務課
	10日	応急手当講習会	東消防署
	11日	救急救命東京研修所第65期生入校(2名) ~3/11	総務課
	12日	防火ポスター・絵画審査会(東消防署)	予防課
	13日	消防防災航空隊連携山岳救助訓練	西消防署
	16日	防災訓練(明保地区)	西消防署
	20日	栃木県消防学校初任教育第71期卒業式	総務課
	21日	令和5年度第1回救助技術認定会(東消防署) ~22日	警防課
	24日	消防団まつり	総務課
	24日	防災訓練(国本地区)	西消防署
	25日	栃木県消防学校専科教育救助科入校(4名) ~10/24	総務課
	26日	栃木県消防長会警防担当者研修会(宇都宮市)	総務課
	28日	第1回予防実務研修会	予防課
	28日	令和5年度第3回事後検証会/第3回栃木県ドクターヘリ事後検証会(東消防署)	警防課
10	29日	宇都宮婦人防火クラブ連合会第2回四役会/役員会(東消防署)	予防課
	30日	防災訓練(清原地区)	東消防署
	1日	防災訓練(上河内地区)	中央消防署
	3日	栃木県消防長会総務担当者研修会(宇都宮市)	総務課
	5日	栃木県消防協会栃木県消防大会/消防職・団員幹部研修会	総務課
	7日	消防学校一日入校(県消防学校)	予防課
	8日	応急手当講習会	西消防署
	10日	防災訓練(御幸地区)	東消防署
	12日	団長・副団長/分団長会議	総務課
	12日	幼年消防防火のつどい(市文化会館)	予防課
	13日	第29回宇都宮市消防職員意見発表会(田原コミュニティプラザ)	総務課
	14日	危険物取扱者準備講習会(清原工業団地管理センター)	予防課
	14日	ジャパンカップサイクルロードレースクリテリウム警備	中央消防署
	14日	ジャパンカップサイクルロードレース警備 ~10/15	西消防署
	15日	防災訓練(細谷・上戸祭地区)	西消防署
	16日	国際消防救助隊員等技術強化訓練(東消防署) ~10/24	警防課
	17日	危険物取扱者準備講習会(東消防署)	予防課
	21日	消防団幹部視察研修 ~10/22	総務課

月	日	事業・行事内容(令和5年度実績)	担当課・署
10	24日	防火ポスター・絵画表彰式(東消防署)	予防課
	25日	栃木県消防学校専科教育救急科入校(8名) ～12/22	総務課
	27日	栃木県消防協会栃木県消防殉職者等慰霊祭	総務課
	30日	宇都宮自衛消防協会・宇都宮危険物保安協会合同管外視察研修 ～10/31	予防課
	30日	第2回予防実務研修会	予防課
	30日	令和5年度第4回ドクターカー症例検討会	警防課
11	2日	全国消防長会役員会(香川県高松市)	総務課
	4日	防災訓練(石井地区)	東消防署
	5日	防災訓練(御幸ヶ原地区)	東消防署
	6日	令和5年度国際消防救助隊連携訓練	警防課
	7日	少年消防クラブ宇都宮委員会第2回定例委員会/研究発表会/防火作品表彰式(消防局)	予防課
	8日	防災訓練(宮の原地区)	西消防署
	9日	第4回宇都宮市消防音楽隊演奏会(宮みらいライトヒル)	総務課
	9日	関東甲信越地区危険物安全協会連合会会長研修 ～11/10	予防課
	9日	秋季全国火災予防運動週間 ～11/15	予防課
	11日	令和5年度宇都宮市消防団機械器具点検 ～11/12	警防課
	12日	防災訓練(戸祭地区)	西消防署
	12日	応急手当講習会	南消防署
	14日	令和5年度緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練(山梨県) ～11/15	警防課
	15日	消防団幹部視察研修 ～11/17	総務課
	16日	令和5年度第4回事後検証会/第4回栃木県ドクターヘリ事後検証会(東消防署)	警防課
	18日	全国消防長会関東支部常任理事会/地区支部役員会(神奈川県横浜市)	総務課
	18日	全国消防長会消防長研修会(神奈川県横浜市)	総務課
	18日	防災フェア(南消防署)	南消防署
	19日	宇都宮マラソン大会警備	東消防署
	20日	消火競技会(競輪場駐車場)	予防課
	20日	救急隊員病院実習(済生会宇都宮病院) ～12/12	警防課
	20日	令和5年度第2回救助技術認定会(東消防署) ～11/29	警防課
	21日	栃木県消防職員研修会/第25回栃木県消防職員意見発表会	総務課
	24日	団長・副団長会議	総務課
	24日	危険物等事故防止ブロック会議/危険物事故防止講習会(東京都)	予防課
	24日	関東支部違反是正事例発表会(茨城県水戸市)	予防課
	24日	栃木県危険物保安協会理事会・会長研修会(ホテルニューイタヤ)	予防課
	25日	防災訓練(西地区)	西消防署
	26日	防災訓練(泉が丘地区)	東消防署
12	1日	全国消防長会関東支部事務担当者会議(栃木県)	総務課
	1日	消防・警察合同防火防犯診断	総務課
	2日	防災訓練(今泉地区)	東消防署
	3日	消防団員安全運転研修	総務課
	3日	防災訓練(峰地区)	東消防署
	3日	防災訓練(瑞穂野地区)	東消防署
	3日	上級救命講習	西消防署
	3日	防災訓練(篠井地区)	西消防署
	4日	第3回予防実務研修会	予防課
	9日	防災訓練(富士見地区)	西消防署
	10日	応急手当講習会	中央消防署
	14日	第26回全国消防救助シンポジウム(東京都)	警防課
	15日	団長・副団長会議/分団長会議	総務課
	15日	消防親和会第2回役員会(書面会議)	総務課
	15日	栃木県危険物保安協会意見交換会(ホテルニューイタヤ)	予防課
	19日	宇都宮婦人防火クラブ連合会 視察研修	予防課
	19日	危険物取扱者保安講習(とちぎ福祉プラザ)	予防課
	25日	年末年始特別夜警 ～1/15	総務課
	25日	令和5年度第5回ドクターカー症例検討会	警防課
1	6日	令和6年宇都宮市消防出初式(県総合文化センターほか)	総務課
	7日	国際消防救助隊員等技術強化訓練	警防課
	11日	初市消防警備	中央消防署
	14日	応急手当講習会	東消防署
	15日	栃木県消防学校専科教育警防科入校(4名) ～1/26	総務課
	16日	栃木県消防学校専科教育特殊災害科入校(2名) ～1/24	総務課
	16日	救急救命士再教育病院実習(宇都宮記念病院) ～3/8	警防課
	19日	栃木県消防長会第3回定例協議会(日光市)	総務課
	24日	文化財防火デー消防訓練(とびやま歴史体験館)	予防課
	25日	団長・副団長会議	総務課
	25日	令和5年度第5回事後検証会/第5回栃木県ドクターヘリ事後検証会(東消防署)	警防課
	28日	栃木県消防協会消防団員指導員養成研修	総務課
	29日	栃木県消防学校幹部教育初級幹部科入校(4名) ～2/9	総務課
	29日	救急隊員病院実習(NHO栃木医療センター) ～2/6	警防課

月	日	事業・行事内容(令和5年度実績)	担当課・署
2	1日	第32回全国救急隊員シンポジウム(愛知県名古屋市) ～2/2	警防課
	2日	第2回自主防災会連絡会議(東消防署)	予防課
	4日	防災フェア(中央消防署)	中央消防署
	5日	栃木県消防学校幹部教育中級幹部科入校(4名) ～2/9	総務課
	6日	危険物取扱者保安講習会(とちぎ福祉プラザ)	予防課
	8日	団長・副団長会議/分団長会議	総務課
	9日	宇都宮婦人防火クラブ連合会第3回四役会/役員会/防火作品表彰式(東消防署)	予防課
	10日	危険物取扱者試験準備講習会(清原管理センター)	予防課
	11日	応急手当講習会	西消防署
	11日	防災訓練(城山地区)	西消防署
	13日	栃木県消防学校専科教育予防査察科入校(4名) ～2/27	総務課
	14日	栃木県消防学校専科教育危険物科入校(3名) ～2/20	総務課
	15日	救急隊員研修会(東消防署) ～2/16	警防課
	16日	栃木県消防協会河宇支部消防団幹部研修会	総務課
	16日	宇都宮自衛消防協会・宇都宮危険物保安協会防災講演会(県総合文化センター)	予防課
	16日	防災非常通信セミナー	通信指令課
	17日	第74回日本救急医学会関東地方会学術集会/第61回救急隊員学術研究会(埼玉県さいたま市)	警防課
	18日	防災訓練(五代・若松原地区)	南消防署
	19日	国際消防救助隊セミナー(滋賀県大津市)	警防課
	20日	危険物取扱者試験準備講習会(東消防署)	予防課
	25日	防災訓練(富屋地区)	西消防署
	26日	令和5年度第6回ドクターカー症例検討会	警防課
	28日	栃木県消防学校消防団員基礎教育	総務課
	29日	消防大学校実務講習緊急援助隊教育科高度救助・特別高度救助コース(第13回)入校(1名) ～3/1	総務課
3	1日	消防大学校専科教育新任教官科(第17回)入校(1名) ～3/13	総務課
	1日	春季全国火災予防運動週間 ～3/7	予防課
	1日	建築防災週間 ～3/7	予防課
	2日	防災訓練(桜地区)	西消防署
	5日	救急隊員病院実習(JCHOうつのみや病院) ～3/8	警防課
	8日	栃木県消防学校消防団員幹部教育(現場指揮) ～3/9	総務課
	10日	応急手当講習会	南消防署
	10日	防災訓練(雀宮地区)	南消防署
	12日	救急救命士ビデオ喉頭鏡追加講習(2名) ～3/13	総務課
	15日	宇都宮危険物保安協会正副会長会議	予防課
	16日	通信指令シンポジウム	通信指令課
	19日	宇都宮婦人防火クラブ連合会第4回四役会(東消防署)	予防課
	22日	栃木県消防学校消防団員幹部教育(分団指揮) ～3/23	総務課
	28日	令和5年度第6回事後検証会/第6回栃木県ドクターヘリ事後検証会(東消防署)	警防課
	29日	消防職員辞令交付式	総務課

4 消防局・消防署配置図



5 消防局・消防署庁舎所在地一覧

令和6年4月1日現在

区 分 署 別		所 在 地	開 署	庁 舎			敷地面積 (㎡)
			年 月 日	構 造	建築面積(㎡)	延面積(㎡)	
消防局 中央消防署	消防局 中央消防署 (併設)	大曾2丁目 2番21号	昭和53年 6月1日	鉄筋コンクリート造 地下1階、地上5階、 塔屋2階建	988.81	3,449.13	4,093.85
	河内分署	白沢町 401番地2	昭和61年 2月27日	鉄筋コンクリート造 2階建	250.00	415.00	1,888.93
	上河内分署	松田新田町 116番地4	昭和61年 3月10日	鉄筋コンクリート造 2階建	286.95	399.15	1,824.00
東消防署	東消防署	中今泉5丁目 37番16号	平成20年 4月1日	鉄筋コンクリート造 3階建	956.53	2,157.05	5,486.85
	平石分署	石井町 2010番地1	昭和58年 1月17日	鉄筋コンクリート造 2階建	248.08	375.94	1,711.58
	清原分署	清原工業団地 3番地3	平成6年 4月1日	鉄筋コンクリート造 2階建	345.49	548.12	3,000.03
西消防署	西消防署	鶴田2丁目 21番7号	平成14年 2月9日	鉄筋コンクリート造 3階建	894.30	2,091.13	3,001.58
	富屋分署	徳次郎町 742番地1	昭和62年 3月20日	鉄筋コンクリート造 2階建	264.33	393.31	3,036.14
	宝木分署	細谷1丁目 7番40号	昭和60年 3月9日	鉄筋コンクリート造 2階建	250.38	374.63	2,058.94
	城山分署	大谷町 1305番地4	平成2年 6月30日	鉄筋コンクリート造 2階建	330.31	465.31	1,597.74
南消防署	南消防署	宮の内1丁目 174番地8	昭和56年 1月9日	鉄筋コンクリート造 2階建	734.75	1,258.50	2,341.50
	陽南分署	双葉3丁目 15番63号	平成元年 3月20日	鉄筋コンクリート造 2階建	343.97	513.31	1,313.50
	築下分署	下栗1丁目 20番地1	平成3年 4月1日	鉄筋コンクリート造 2階建	367.00	547.19	2,599.99